



# KUSAMA INDUSTRIES CO.,LTD TIMES

クサマ工業通信

Vo. 5

2016年2月発行



## ご挨拶

まだまだ寒い日が続きますが、皆様お元気でしょうか。私は元気なのですが、子供が4人インフルエンザになってしまいました。皆様もお気をつけて下さい。

今回からニュースレターのデザインが変わりましたが、今まで同様、加工や鋳物のこと、そして会社のことなど書いていきたいと思っておりますので読んでいただくと幸いです。（草間）

## 佶社長の言葉 テレビドラマ『下町ロケット』より

少し前の話になってしまいますが、『下町ロケット』というテレビドラマがやっていました。佶製作所という中小企業（といっても社員が200名ほど当社とは規模がまったく違いますが・・・）が自社の技術力を活かしロケット部品をつくるという内容です。その中で佶社長が手作業についてこう語っています。「手作業で作ると、機械で作ると違って、考えるヒントになる。たとえば、途中まで穴を仕掛けたところで、やっぱり、違う場所の方が良かったとか、組み上げる前に設計の不味いところが分かったり。コンピューターよりも手の方が融通が利くんですよ。作ってから上手く作動しないことも、手作業の方が少ない。結果的に作業効率を上げることになるんです。」

当社と佶製作所では規模も事業内容も違いますが共感出来ることも多かったです。



スロッターと当社の技術を支える工場長



## 汎用機とNC工作機械

当社には汎用機（手動機械）が多くあります。そして新人はまず汎用機から覚えていきます。ものづくりの基礎を覚えるにはやはり汎用機が良いと思います。また、当社のように単品モノが多い会社ですとNC旋盤やマシニングセンターでプログラムをつかって加工するより、汎用機で加工した方が早い場合も多いです。手動（汎用機）とコンピューター（NC工作機械）の良い所を活かしていくことを当社では大事にしています。

## クサマ品質・クサマプライド

写真は当社にあるスロッターという、主にキー溝を削る汎用機です。製造日を見るとなんと昭和16年、第二次世界大戦中です。そんな機械が当社でまだ活躍中です。定期的にメンテナンスを行い、しっかりとした技術をもった職人が作業すれば±0.01ミリの精度が出せます。『下町ロケット』では「佶品質・佶プライド」と言っていたが、当社では「クサマ品質・クサマプライド」です！